

平成28年2月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 平成28年 3月 8日(火) 開会 午前10時 2分
閉会 午前11時40分

場所 第1委員会室

出席委員 中屋敷慎一委員長

山下勝矢副委員長

浅井明委員、白土幸仁委員、鈴木弘委員、渋谷実委員、樋口邦利委員、
江原久美子委員、田並尚明委員、吉良英敏委員、醍醐清委員、石渡豊委員、
前原かづえ委員

欠席委員 なし

説明者 [県民生活部]

福島勤県民生活部長、久保正美県民生活部スポーツ局長、

古垣玲スポーツ振興課長、西村実スポーツ振興課スポーツ企画幹、

清水雅之オリンピック・パラリンピック課長、山崎さおり文化振興課副課長、

[産業労働部]

今成貞昭観光課長

[都市整備部]

和栗肇公園スタジアム課長

会議に付した事件

スポーツの振興について

田並委員

- 1 執行部にはスポーツの振興等に大変頑張っていていただき感謝申し上げます。ラグビーの推進委員会は、どのようなメンバー構成か。また、現時点ではどのような話がされているのか。
- 2 オリンピック・パラリンピックの気運醸成のため、今年のリオデジャネイロ大会に本県から参加する選手の壮行会を実施してはと考えるがどうか。

スポーツ振興課スポーツ企画幹

- 1 資料2の3ページにあるように、今年度推進委員会では主に気運醸成の取組をしている。例えば、(3)のイベントは、オリンピック・パラリンピック、及びラグビーワールドカップの両方について、県民の皆様にPRを実施した。
特にラグビーについては、今月中に推進委員会の下に専門委員会を設置し、来年度の事業を進めるための準備をしていく。推進委員会全体の人数は約300名であるが、ラグビーの専門委員会については、県、市及び県のラグビー協会など、20名前後を予定している。

オリンピック・パラリンピック課長

- 2 リオデジャネイロ大会の出場選手が全て決まっていない状況である。例えば、ゴルフは7月11日時点の世界ランキングを参考に出場選手を決めるので決定がぎりぎりになってしまう。本県出身選手の壮行会を実施すれば大いに盛り上がると思うが、選手が出席することは体調との関係でなかなか難しい面もある。昨年11月に実施した記念イベントではオリンピックである金メダリストの小原選手やラグビーのホラニ選手などに参加してもらった。そういったオリンピック等にも活躍していただきながら、気運醸成していきたい。

田並委員

先日、サッカー、ラグビーの議連合同で吹田スタジアムを視察したところ、すばらしいスタジアムで大変感動したが、サッカーの関係者や関係団体によると、Jリーグの試合はできるが国際試合はここでは無理との評価であると聞いて大変驚いた。熊谷ラグビー場もワールドカップまであと3年あるので、関係団体と人間関係等をしっかりと構築して、ワールドカップ開催後も活用できるよう、しっかりとやっていかないといけないと考えるがどうか。

スポーツ振興課スポーツ企画幹

現在、熊谷ラグビー場の改修の準備をしているが、委員発言のとおり、このラグビー場が、ワールドカップ開催後も大きな大会が開催できるよう、これから様々な組織の方々と関係構築を進めていく。

吉良委員

- 1 さいたま国際マラソンについて、横浜国際女子マラソンの終了を受けて開催されたが、今後、埼玉では何回くらい開催する予定なのか。

- 2 ラグビーワールドカップについて、県内への経済効果はどれくらいあると考えているのか。
- 3 オリンピック・パラリンピック参加国の県内へのキャンプ誘致について、どのくらいを見込んでいるのか。東京での開催であることから埼玉、千葉、神奈川などは会場に近く利便性が高い。現在決まっているのがブータンだけとは寂しい気がする。相当数のキャンプが見込めると思うがどうか。
- 4 オリンピック・パラリンピックにおけるボランティアの活用について、今定例会に手話言語条例を議員提案しているなどの背景も踏まえ、とりわけパラリンピックにおける手話ボランティアの積極的な活用をすべきと考えるが、推進の状況はどうか。
- 5 オリンピックは暑い時期の開催であることから具体的な暑さ対策は大変重要と考えるがどのような対応を考えているのか。

スポーツ振興課長

- 1 さいたま国際マラソンについて、いつまで、あるいは何回くらい開催するかについては、現時点では決めていない。全国のマラソンファンや世界の女性ランナーに愛される大会として末長くやっていけるように努力をしていきたい。

スポーツ振興課スポーツ企画幹

- 2 ラグビーワールドカップの埼玉県における経済波及効果、金額については、まだ熊谷で実施する試合数が分からないので、現時点で金額を出すのは困難である。ちなみに、イングランド大会での各会場都市の経済波及効果は、約80億円から100億円であったと聞いている。

オリンピック・パラリンピック課長

- 3 現時点で、明確に動き出しているのは寄居町のブータン王国である。現在、キャンプ誘致アクションプログラムを策定中であり、市町村の意向を基に、今後、市町村と連携しながら各国へアプローチをしていく計画である。これまでにアメリカチームやオランダチームが県内を視察している。県ではブラジルオリンピック委員会にも働き掛けをしており、相手も興味を示していることから視察する見込みである。リオデジャネイロ大会が終われば、各国ともキャンプ地の確保に向けて本格的に動き出してくると見込んでおり、迅速な対応ができるよう引き続き対応していきたい。
- 4 障害者をはじめ、高齢者及び外国人などへのおもてなしの準備は大変重要と考えており、ボランティアに関しては来年度、具体的な確保・育成の計画を作成し進めていく予定である。大会組織委員会によるとオリンピックの大会運営に関わる大会ボランティアは平成30年から募集するとしている。また、東京都は交通や観光案内をする都市ボランティアを平成29年から募集するとしている。本県も計画を踏まえ、大会組織委員会や東京都と連携して募集できるように調整していく。手話対応に関しては、国などが主催するアクセシビリティ協議会で「心のバリアフリーについての接遇マニュアル」を作成していると聞いており、そういったものも生かしながら本県のボランティア育成を進めていく。
- 5 暑さ対策については、推進委員会で進めていく。具体的にはクールスポットの設置やうち水、避難場所の設置などを検討していく。庁内推進会議でも会場関連部署や道路関係部署と連携して対応していく。

浅井委員

- 1 熊谷ラグビー場での試合について、大会のチケットの枚数は何枚くらいを予定しているのか。そのうち国内用は何枚か。また、今後のスケジュールや周知方法についても伺いたい。
- 2 資料2に大会組織委員会が作成するキャンプ候補地ガイドへの掲載支援とあるが、具体的にどのような支援をするのか。

スポーツ振興課スポーツ企画幹

- 1 ラグビーワールドカップの熊谷会場におけるチケットの枚数については、1試合3万席を用意する予定である。今のところ公表されていないのではっきりしないが、そのうち関係者の席などを除くと2万数千枚になるかと考えられる。また、国内で何万枚売れるかといった、チケットの今後の販売方針については、今年から来年にかけて組織委員会が検討すると聞いている。周知の方法については、組織委員会をはじめ開催都市はその周知を支援することになっているので、県と市で一緒に周知をしていく予定である。

オリンピック・パラリンピック課長

- 2 各国のオリンピック・パラリンピック委員会などへ日本のキャンプ候補地を紹介する大会組織委員会のホームページへ掲載されるには様々な国際基準に沿った施設であることが条件となる。例えばプールであれば50メートルの長水路、1レーン幅が2.5メートル以上、照度が1,500ルクス以上、そういった国際基準に適合する施設については掲載できる。掲載するに当たり、県が間に入って基準の情報の提供や英訳の手伝いなど様々支援をしている。

白土委員

- 1 さいたま国際マラソンについては、資料には第1回大会の成果のみ書いてあるが、1回目ということで、いろいろな意味で次回に生かせる反省点もあるかと思うがどうか。
- 2 前回の東京オリンピックでの聖火リレーは、県内では中山道のみを通過したが、県内には様々な街道があるのでいろいろな場所を走ってもらいたい。本県は交通の要衝であり日光街道もあれば中山道もある。今後も見据えどう考えているのか。
- 3 キャンプ誘致のパンフレットが見開き4ページで情報量が少ない。掲載会場を増やして内容をもっとボリュームアップできないか。来年新たに作成するのか。
- 4 文化プログラムについて、もちろんオリンピックは、文化の祭典でもあるということがオリンピック憲章に載っている。今日の埼玉新聞を見ると、県の選手100人のオリンピック出場を目標に、中学3年生以上60人を強化選手に指定し、平成28年度予算に事業費を約5,400万円計上して、選手1人に40万円助成するとあるが、私は少なすぎると考えている。一方で、この文化プログラムには非常に大きな金額がかかっている。総額で県の予算で1億3,000万円を使って、蜷川幸雄演出の大群像劇に予算を割いており、選手の強化に重きを置くべきでバランスを欠いているのではないか。

スポーツ振興課長

- 1 さいたま国際マラソンの反省点については、第1回ということで、まだまだ力不足の点があったかと考えている。1点目としては、一般の部について、4時間制限で参加人数5,000人という形で実施した、もっと多くの人を走らせてほしいという御意見もいただいている一方で、4時間というストイックなレースも良いという話も伺っている。

多くの方に参加していただきたいというマラソン振興の観点もあるので制限時間や参加人数については反省というか、課題という形で今後検討していきたいと考えている。また、2点目としては、多くのボランティアの方に参加をしていただいたが、初めてのコースであったため、ボランティアの方により一層活躍をしていただけた部分もあったのかなという点がある。3点目として、マラソンではないが、県民生活への影響という点で、都市部での開催で交通規制をしたため、県民の方に御迷惑を掛ける部分もあり、県民の方から色々と苦情を含め御意見を頂いているので、解消できるよう次回以降しっかりと検討していきたいと考えている。

オリンピック・パラリンピック課長

- 2 大会組織委員会のロードマップによると、聖火リレーのルートは2019年に発表される。現在具体的な話は大会組織委員会から県には来ていない。リオデジャネイロ大会後にルート選定の作業に入っていくのだと思う。聖火リレーは多くの国民・地域が参加でき気運を盛り上げるプレイベントで、できるだけ多くの県民が参加できることが望ましいので、県の意見を大会組織委員会へ述べていきたい。
- 3 キャンプパンフレットは昨年12月に作成したものだが、まず本県の地理的優位性、スポーツが盛んでオリンピックの会場もある県といったことを知ってもらうために作成した。具体的な情報が少ないのは確かだが、掲載するスペースの問題もある。補完する意味でも県ではホームページを作成し、その中でより詳しいキャンプ地情報を案内していく。今後、何が一番効果的なツールかを検証し、更に検討していく。

文化振興課副課長

- 4 総事業費のうち県の委託料は6年間で2億8,000万円、平成28年度は1億3,000万円である。平成28年度は3,000人、平成30年度は8,000人、平成32年度は1万人で実施する。かつてない規模のため、劇場では実施できないので舞台設備のない施設で行う。そのため、特に1回目の平成28年度は、大道具や企画制作の経費がかかる。しかし、平成30年度、平成32年度は大道具を使い回すためこれほど経費はかからない。オリンピック・パラリンピックは、埼玉の文化を世界に発信する絶好の機会である。蜷川芸術監督の演出する作品は世界でも大変注目されている。例えば、ロンドンオリンピックでは、ワールド・シェイクスピア・フェスティバルに蜷川シェイクスピアが招へいされ、大変好評だった。世界に埼玉の文化の魅力や存在感を示すためにも是非、蜷川監督の「1万人のゴールド・シアター」を実施させていただきたい。

委員長

選手の育成関係費と1億3,000万円とのバランスについての答弁がなかったがどうか。

県民生活部長

オリンピック選手の育成関係費である5,400万円と1万人のゴールド・シアターの1億3,000万円とのバランスであるが、本県のオリンピックを育てようということで中学3年生以上の60人の選手育成を目指すというこの事業以外にも、体育協会を通じて選手、オリンピック以外も含めた、スポーツ選手の育成を目指す予算は別途用意している。1万人のゴールド・シアターは、日本を代表するような芸術家が埼玉にいるということアピールするものであり、8,000人、1万人と出演者を増やして継続的にアピールを

していく。

白土委員

1万人のゴールド・シアターはどこで上演されるのか。オリンピック会場でも上演を考えているのか。埼玉の特徴的な文化は伝統芸能である。文化プログラムは、伝統芸能をやるべきではないか。彩の国シェイクスピア・シリーズは知っているが、シェイクスピアは日本の文化ではない。伝統芸能を醸成できるようなプログラムをやっていくべきだ。また、この事業をやることによってどのようなレガシーが残されていくのか。

文化振興課副課長

場所について、平成28年度はさいたまスーパーアリーナで実施する予定だが、それ以降は未定である。オリンピック会場での上演は今後検討したい。埼玉の特徴的な文化として伝統芸能があることは県としても十分認識している。平成28年度は、1万人のゴールド・シアターとともに、11月に文化プログラムのキックオフイベントを実施する予定であり、埼玉の特徴的な伝統芸能や細川紙、アニメなどを活用した事業を考えているので、伝統芸能についてはキックオフイベントに入れていきたい。今後、有識者、市町村、文化団体などの御意見やアイデアを頂きながら文化プログラムのアクションプランを作成していくので、その中で検討していく。伝統芸能についても是非埼玉の特徴ある文化としてアピールしていきたい。また、若い人たちが活躍するようなものを文化プログラムに入れていきたい。この事業のレガシーとしては、高齢者の活躍できる社会を醸成していくことである。なお、1万人のゴールド・シアターは、彩の国シェイクスピア・シリーズではない。募集した65歳以上の参加者の方とゴールド・シアターのメンバーで、老人の夢を語るオリジナルな内容になると聞いている。ノゾエ征爾さんに脚本を依頼している。

前原委員

- 1 吉良委員の質問に対して、平成27年が第1回であるさいたま国際マラソンを、今後何回やるのか決めていないが、未長く開催したいとのことであるが、引き継いだ横浜国際女子マラソンは、どういう理由で終了するところになったのか。また、白土委員の質問での大会の反省点にも関係するが、横浜国際女子マラソンが継続できなかった点をどのように捉えているのか。
- 2 マラソン大会を通じて地域振興を図ることができたとのことであるが、この場合の地域というのは、イベント会場がにぎわったのか、あるいは大会に併せた地域振興策として何かが用意されて、それに関連した地域の人たちの振興につながったのか、考え方を聞きたい。
- 3 スポーツ基本法では、スポーツを通じて、幸せで豊かな生活を営むことは全ての人たちの権利であるとうたっているが、スポーツを生活の中に取り込んでいくというのは、社会人となると大変である。オリンピック・パラリンピック、それから大規模スポーツ大会を開催する一方、ふだんの生活の中で、大会に参加できる人に限らず、多くの方々がスポーツに参加するような事業についてしっかりと考えているのか。オリンピックなどの大会を成功させるのは当然であるが、それだけでなく、スポーツの基本精神にのっとり多くの方たちがスポーツをより楽しみ、体を鍛え健康につながるための取組もしっかりと行っているか聞きたい。

スポーツ振興課長

- 1 横浜国際女子マラソンが終了した理由については、明確な理由は聞いていない。横浜国際女子マラソンは、エリートマラソンだけであり、今回のさいたま国際マラソンでいう、日本代表チャレンジャーの部だけの大会であった。また、規模が小さいため、女子マラソンの人気は若干低迷してきたということもあって、経費的な課題もあったと伺っている。今回、さいたま国際マラソンは、今のマラソンブーム、ランニングブームをしっかり反映をして、エリートだけではなく一般の方も走っていただける大会として再構築をしている点が、横浜国際女子マラソンとの大きな違いである。そういった特色を生かして、引き続きさいたま国際マラソンを進めていきたいと考えている。
- 2 地域振興の捉え方についてであるが、県という立場から全県的な視野を持って対応をしている。会場だけではなく埼玉県全体の様々な地域の観光、物産等がPRできるようにと考え、草加せんべいや狭山茶の配布や各種イベントを通じて、全国から集まってきたマラソンランナーにアピールをして、マラソン以外の場面でも、もう一度埼玉に来ていただけるように取組をした。地域というのは埼玉県全域で考えている。
- 3 県民の方がスポーツに親しめる環境づくりとしては、例えば、それぞれの地域に、身近な場面でスポーツに親しんでいただける場を提供する総合型地域スポーツクラブの設立の支援や、県立学校の学校開放などを進めている。

前原委員

大規模スポーツイベントと併せて地域のスポーツ振興のための施策を推進しているとのことであるが、職員体制については万全なのか。

スポーツ振興課長

スポーツ振興課の業務としては、生涯スポーツに係る業務、あるいは競技スポーツに係る業務、それからこのような大会を行うための業務がある。これらについては、それぞれ担当を設け、組織体制を整えており、なかなか業務量として厳しい部分も当然あるが、きちんと担当分けをして、課全体の中で調整をしながら業務をしているところである。

江原委員

- 1 さいたま国際マラソンについて伺う。観客数は大きな評価のポイントになると考えるが、この36万人という数字はどのように算出した数字なのか。
- 2 マラソン会場で、観光情報誌のちょこたび埼玉を来場者と選手に配布したとのことであるが、何部配布したのか。
- 3 オリンピック・パラリンピックの気運醸成事業として、昨年11月に開催した記念イベントの開催経費はどれくらいで、参加した400名の内訳はどうなっているのか。また、今後毎年開催するのか。
- 4 気運醸成事業として、平成26年度からフェイスブックページを開設したとのことだが、「いいね！」の件数はどれくらいか。それにより気運は醸成されていると思うか。

スポーツ振興課長

- 1 さいたま国際マラソンの観客数36万人については、一人ずつ数えるわけではなく、ある区間にこれくらい的人数がいるということ積み上げていく方法で、ある程度ざっくりした数字ではあるが、計算した数字である。
- 2 ちょこたび埼玉は、1万2,000冊用意し、ランナーの方には全員受付のときに配

布し、来場者には、会場で係員が配布した。是非ちょこたび埼玉を見ていただいて、もう一度埼玉に来ていただければと考えている。

オリンピック・パラリンピック課長

- 3 イベント経費は概算で約700万円である。参加したのは、県内の中高生で全国大会優勝者やパラリンピックの強化選手など120名である。これらの選手が東京大会を背負って立つ未来のアスリートである。彼らと現オリンピックとでトークショーを行ったものである。推進委員会の設立総会の設置イベントなので1回きりであるが、今後、気運醸成として4年前のイベントや1000日前イベント、2年前イベントなどを行っていく予定で、平成28年度は4年前イベントを実施する予定である。
- 4 フェイスブックページは平成26年度から開設している。国際スポーツ課が「埼玉県国際スポーツ課発～みんなで成功させよう！2020東京オリンピック・パラリンピック～」と題し、会場地や会場周辺の情報などを発信してきた。職員だけではなく、若い方にも関心を持ってもらうため、射撃会場である陸上自衛隊朝霞訓練所に近い十文字学園女子大学の学生に、取材した周辺情報などの記事を書いてもらっている。「いいね！」の件数だが、平成27年度に課名が変わったため新たにフェイスブックページを立ち上げた関係から、旧ページでの件数が268件、新ページが148件である。若干少ないが、昨年11月30日の設立総会の記事ではリーチした数は約2,000人である。着実に見た人の数は伸びていると認識している。今後もHPや情報誌を利用しながら皆に見てもらおうよう工夫していきたい。

江原委員

行政が立ち上げたフェイスブックは「いいね！」が10人とか2桁とか少ない。若い層にも広げるために十文字学園女子大学と連携することはいいことと思う。今後も若い人も一緒に盛り上げられるよう頑張ってもらいたいと思う。

オリンピック・パラリンピック課長

今後、少しでも多くの方に見ていただける情報を発信できるよう工夫していきたい。

石渡委員

- 1 気運醸成はとても大切である。フェイスブックページを立ち上げたなら県庁職員全員が見るくらいの思いでやるべきである。720万県民のうち1割を目指すくらいの思いで頑張ってもらいたい。「いいね！」の件数も上げてもらいたい。
- 2 埼玉国体では花いっぱいのおもてなしを行った。熊谷のスタジアムへの道沿いも花々で一杯にし、移動のバス内の選手目線に高さに合わせて電柱にも花を飾るなど選手団には好評だった。費用も安いし、多くの県民が参加した。オリンピック・パラリンピックでも県民が多く参加できるようなおもてなしを考えていただきたい。
- 3 宿泊対策として、県でワーキンググループを3回開催したそうだが、どんな内容について議論したのか。今後こういった方向で議論していくのか。

オリンピック・パラリンピック課長

- 1 気運醸成はまず県職員からといった指摘はもっともだと思う。いろいろ工夫して頑張っていきたい。
- 2 花いっぱいのおもてなしだが、これからのオリンピックにはいかに多くの人に参加し

てもらうのが大きな課題である。花いっぱいや美化運動はボランティアだけでなく、地域や学校独自でも参加できる良い運動だと思う。埼玉には国体の良いレガシーがあるので、この経験を生かしながら、市町村やスポーツ団体などオール埼玉体制の推進委員会に部会を設置し、おもてなし活動を検討していく。

- 3 本県でも民泊の導入について、規制する立場の担当課にも入ってもらい検討してきた。現状では旅館業法などの縛りがあり難しいということで、ホームステイや国体時の民泊などについて話し合っているところである。民泊の規制緩和の動きもあるので、迅速に対応できるよう今後も引き続き検討していく。